

令和5年度地域デジタル人材育成・確保推進事業
(デジタル人材育成における地域ハブ機能実証事業)

デジタル推進人材育成プログラム 「マナビDX Quest」について

2024年3月14日

株式会社ジェック経営コンサルタント
取締役第1事業部部长 小島雅史

kojima_m@jeckc.com

デジタル推進人材育成プログラム「マナビDX Quest」とは

■ 経済産業省の取り組み

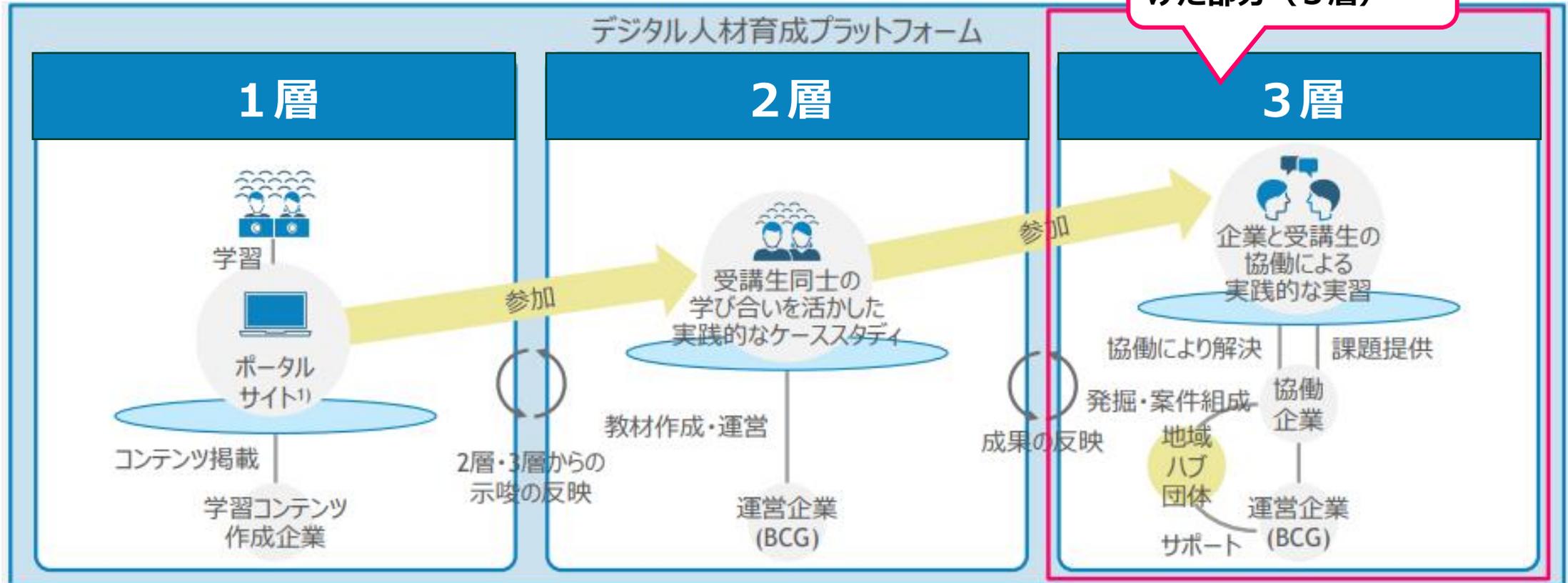
経産省では、令和4年度より地域の企業・産業のDXを加速させるために『デジタル人材育成プラットフォーム』を構築し、その推進役となるデジタル人材の育成・確保を図るための取り組みが行われています。

デジタル人材育成プラットフォーム

- デジタルスキル標準の設定 — 「DXリテラシー標準」等を作成
- デジタルスキル標準に紐づける形での教育コンテンツの整備
- 地方におけるDX促進活動支援 — デジタル人材の育成・確保

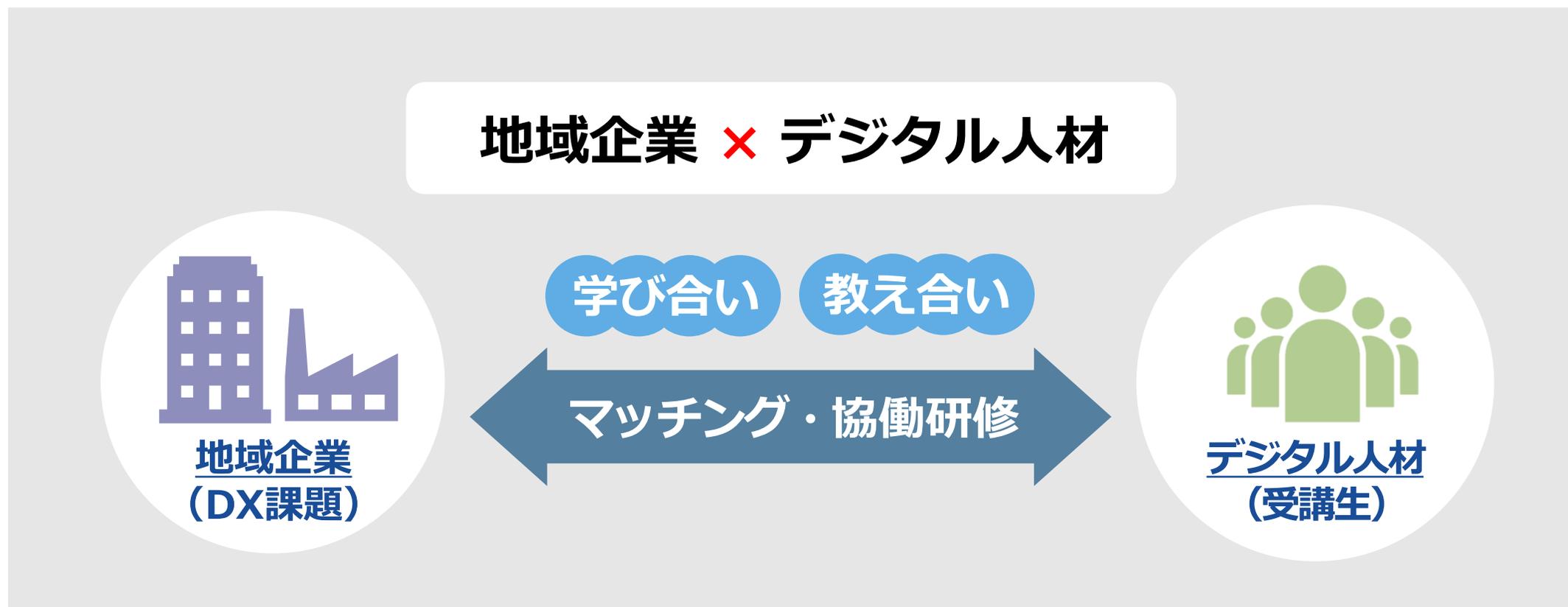
デジタル人材育成プラットフォームは、1～3層で構成

- 1層：基礎的なデジタルスキルを学べるオンライン教育ポータルサイト「マナビDX」
- 2層：企業データに基づく実践的なケーススタディ教育プログラム
- 3層：地域企業と協働したオンライン研修プログラム



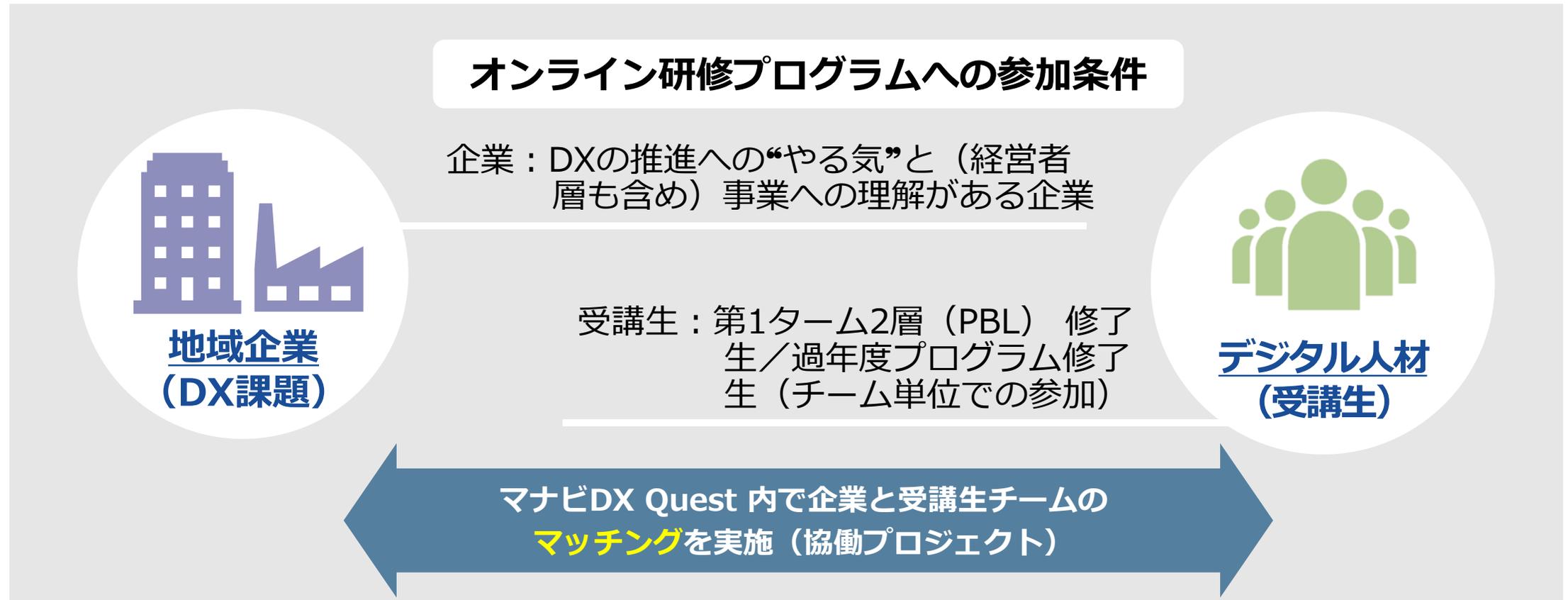
3層（地域企業と協働したオンライン研修プログラム）について

3層は、1層・2層で学んだ受講生とDX促進を希望する地域企業が協働し、実際に企業のDXにおける課題の解決にチームで取り組み、双方の学びを深めるプログラムです。



3層：オンライン研修プログラムの概要①

- ◆ 「地域企業と協働したオンライン研修プログラム」では、受講生と企業のマッチングによりできた「プロジェクトチーム」で、実際に企業の課題解決に取り組みます。（協働）



3層：オンライン研修プログラムの概要②

- ◆ 約2か月の間、週1回程度のオンラインでの会議を実施する中で、課題解決に向けて議論を行います。
- ◆ 地域ハブ団体は企業の発掘・案件組成を実施し、プログラム期間中は、企業-受講生を中心に議論を進めることを前提に、円滑な進行をサポートする役割を担います。

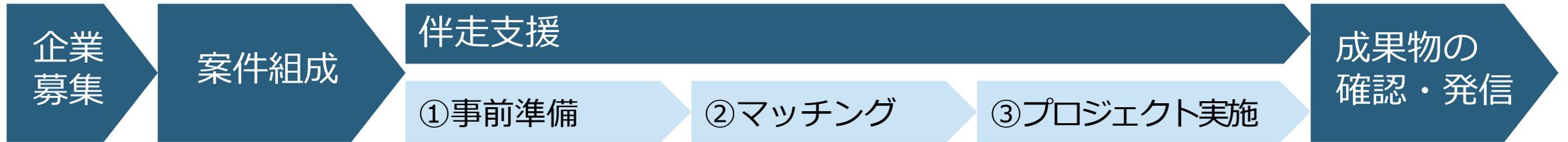


地域ハブ団体としての取り組み



- (1) 地域企業に対するオンライン研修プログラム概要説明及び
参加候補企業の発掘
- (2) 参加候補企業に対するオンライン研修プログラムの**案件組成**
 - ① 参加候補企業に**ヒアリングの実施**
 - ② 地域企業のヒアリングに基づき、協議の上、**DXテーマを決定**
- (3) オンライン研修プログラムの**伴走支援**
 - ① デジタル人材（受講生チーム）との**マッチングに向けての準備・支援**
 - ② マッチング後のオンライン研修プログラム期中の進捗管理とフォロー
- (4) オンライン研修プログラムの**成果報告書の確認**及び**地域内への発信**
 - ① 参加企業の成果資料の**確認、検証、提出**
 - ② 地域内への**情報発信**

事業の進め方



- 事業説明会を実施し、参加候補企業を募集
- 参加希望の企業に対してヒアリングを実施（案件組成）
 - ・ 事務局が作成したヒアリングシートに沿って参加にあたって必要な情報を整理
- 協働プロジェクト開始に向けて（伴走支援）
 - ・ マッチングプラットフォームへの入力事項の検討・決定
 - ・ キックオフに向けた資料作成・体制構築支援 等
 - ・ マッチング時の企業選択や登録内容修正・変更等のサポート
 - ・ 企業や受講生側の相談窓口として機能
- 協働プロジェクトの実施（伴走支援）
 - ・ 基本的には企業と受講生チームとの間で進行し、地域ハブ団体は伴走（サポート）を行う
- 受講生チームの成果物を確認、協働終了後は成果を地域へ発信

対象企業：デジタル化の状況を問わず最終的にDXを目指す企業を募集



全ての段階に該当
する企業が対象

- 将来的には
DX を目指すこ
とを前提とする

Source: 経済産業省:DXレポート2 (2020年12月)

具体的には、3つのパターンの企業を受け入れ、パターン別に取り組内容やゴールを設定
3層の対象企業

<p>企業のデジタル化の状態</p>	<p>パターン① デジタル化の可能性検討</p> <p>デジタル化にこれから取り組みたい。 何からどう進めるべきかを検討し、具体的なアクションに移していきたい</p>	<p>パターン② データ分析を通じたデータ・デジタル技術の活用可能性の設計/ 初期的な検証</p> <p>デジタル化の構想/テーマが決まっており、データがゼロではない。 今後のプロジェクトの具体化(取り組み判断含む)や初期的な検証(PoC)を実施したい</p>	<p>対象外 モデル・システムの実装・運用</p> <p>モデルやシステムは構築・検証済みであり、実装・運用していきたい</p> <p>対象外 企業と受講生間の合意があれば、終了後に継続実施も可能</p>	<p>パターン③ データ・デジタル技術を用いた新規事業検討</p> <p>デジタル化の取り組みは一定進んでおり、それらを活用した新しいビジネスモデルを創出したい</p>
<p>2か月間で取り組むことイメージ</p>	<p>DXへの意識醸成支援</p> <p>DXの推進計画の策定</p> <ul style="list-style-type: none"> 現状把握・課題特定 打ち手の検討 DX導入・展開計画の策定 	<p>DX施策具体化・効果検証</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後の取り組み方針の検討/計画策定 PoCの実施(モデル開発等) 本番実装・運用・展開計画の作成 等 	<p>システムの開発・運用・改善</p> <ul style="list-style-type: none"> システム実装のための運用環境の構築・整備 既に運用しているシステム・モデルの改善 	<p>新たなビジネスの計画検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 新事業アイデアのブレスト/評価 実現までのロードマップの策定

北陸地域ではパターン①とパターン②の企業が参加

DXセミナー(事業説明会)を開催

2023年8月に「人も企業も魅力向上！いまからマナブDX！」のテーマで、DXセミナー(事業説明会)を開催しました。

デジタル人材の育成・確保、DXの事例等にご関心のある北陸地域の事業者、支援機関へ向けて、事業の説明と、協働プログラムへの参加を呼びかけました。



▲8月DXセミナー開催(会場)の様子



8月DXセミナーご案内チラシ▶

令和5年度地域デジタル人材育成・確保推進事業(デジタル人材育成における地域ハブ機能実証事業)セミナー

人も企業も魅力向上！ いまからマナブDX！

経済産業省は、地域企業・産業のDXの実現に向け、デジタル人材の育成を推進するため、1,800人程度の学生・社会人を対象にデジタル推進人材育成プログラム「マナブDX Quest」を実施し、現在、全国から受講生を募集しております。

本セミナーは、北陸地域におけるデジタル人材の育成・確保、また、DX推進にご活用いただける上記プログラムについて説明するとともに、北陸地域においてDXに資する取り組みをしている企業にご登壇いただき、その取り組みについてご紹介いただきます。

さらに、経済産業省のDX関連施策なども広くご紹介いたします。デジタル人材の育成・確保、DXの事例等にご関心のある北陸地域の事業者、支援機関の皆様等のご参加をお待ちしております。

プログラム

- 1.オンライン研修プログラムのご紹介**
中部経済産業局北陸支局 地域経済産業課
株式会社ジェック経営コンサルタント
- 2.北陸地域のデジタル化・DX等の事例紹介**
 - (1) デジタル人材と学びながら推進したデジタル化・DXの事例紹介
① 株式会社スギヨ
管理本部 DX推進部 課長
中村 徹也氏
 - ② 富木医療器株式会社
専務取締役 システム事業本部長
富木 勇嗣郎氏
- (2) デジタル化・DXを先進企業からマナブ
株式会社山口技研
代表取締役社長 山口 剛史氏

- 3.北陸地域のDX関連施策の説明**
経済産業省によるDX関連施策の説明
※中堅中小DX 手引き 2.0、DX認定、セレクション、ラボ(商務情報政策局 情報技術利用促進課)

2023 8/1(火) 参加費 無料
14:00-16:00 受付 13:30~
会場：富山県民会館 301号室
富山県富山市新総曲輪4-18

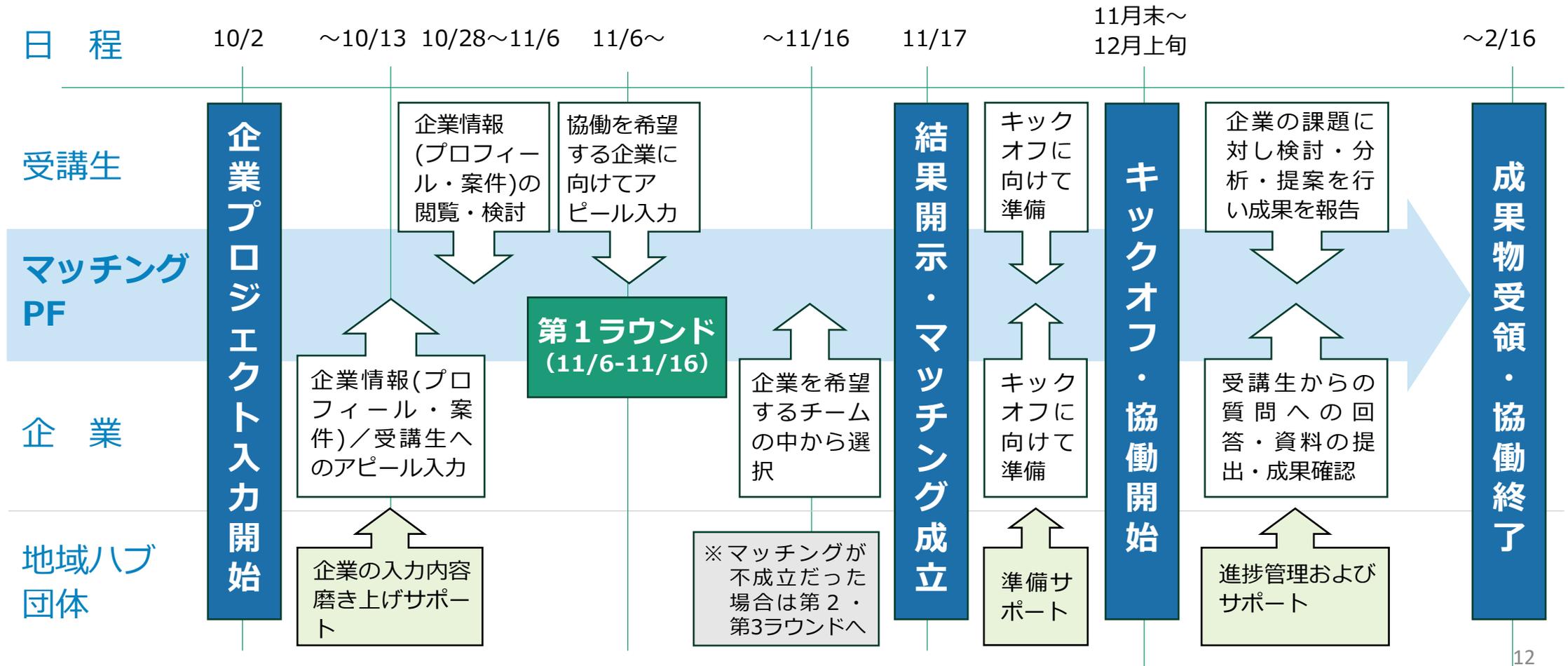
ハイブリッド形式で開催 (Microsoft Teams)
対象者：北陸地域のものづくり中堅・中小企業
及びサービス企業、支援機関等
定員：会場 50名 オンライン 200名
主催：中部経済産業局 電力ガス事業北陸支局

【お問い合わせ】 株式会社ジェック経営コンサルタント
〒930-0805 富山県富山市湊入船町3番30号
TEL: 076-444-0035 FAX: 076-444-1135 URL: <https://jECK.com>
dx_jinzai@jECK2023.go.jp 担当/小島、高田、澤橋

【申込方法】 右記QRコードより 2023年7月27日(木) までにお申し込みください。

協働プログラムの実施スケジュール

協働する受講生チームとのマッチングは、マッチングプラットフォーム（事務局作成）を通じて実施しました。



協働プログラムの参加企業と受講生チーム

北陸では、地域企業 8 社の経営陣・担当者と、受講生 8 チームが協働して、企業のDX推進における課題解決に取り組みました。

北陸地域の企業

受講生チーム

パターン①で参加

- | | |
|--------------|---------------------------|
| ・ 株式会社BKT | ・ DXお悩み相談室 |
| ・ 株式会社石金精機 | ・ 一石三鳥 |
| ・ 田中精密工業株式会社 | ・ 一緒に育つDXの樹 |
| ・ 戸出化成株式会社 | ・ ~企業に寄り添い、笑顔を育む~ DXシッターズ |
| ・ 株式会社東洋電制 | ・ PATHWISE |
| ・ 株式会社メタルウエア | ・ 6pigs |

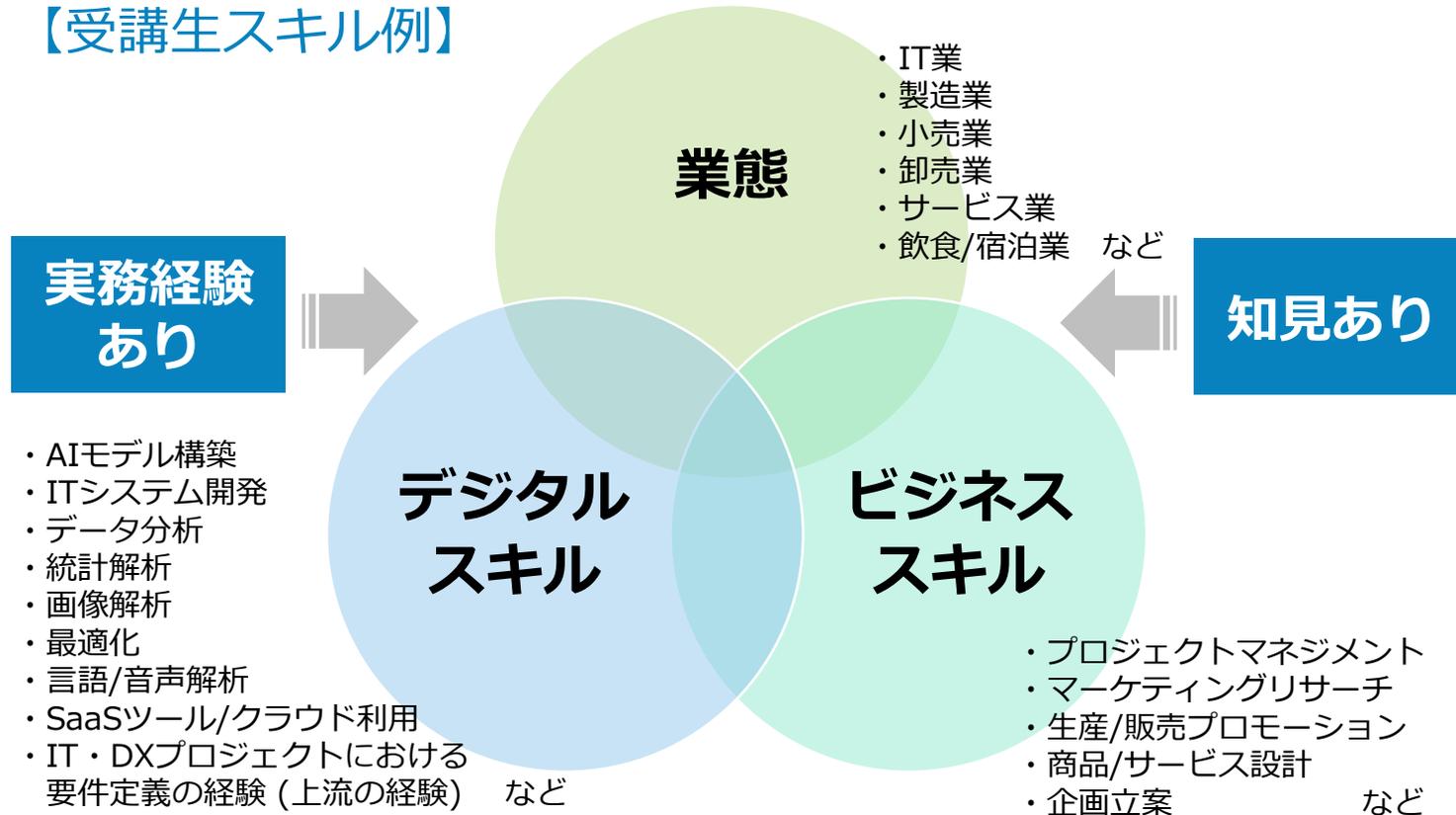
パターン②で参加

- | | |
|-------------|---------------------------------------|
| ・ 株式会社スギヨ | ・ #AIdol'23 ~疑問や不安にもひとつずつ向き合わせてください!~ |
| ・ 富木医療器株式会社 | ・ ユニテック |

北陸企業と協働した受講生チーム

協働プログラムに参加した受講生チームは、日本各地の学生や社会人などで、マナビDX(1層)とマナビDXクエスト(2層)を修了した、DXの経験や知見がある、様々なメンバーで構成されています。

【受講生スキル例】



受講生チーム

- ・ DXお悩み相談室
- ・ 一石三鳥
- ・ 一緒に育つDXの樹
- ・ ~企業に寄り添い、笑顔を育む~
DXシッターズ
- ・ PATHWISE
- ・ 6pigs
- ・ #AIdol'23
~疑問や不安にもひとつずつ
向き合わせてください!~
- ・ ユニテック

協働プログラム参加企業のプロジェクトテーマ

北陸地域から参加した企業 8 社のうち、6 社はパターン①、2 社がパターン②での参加でした。

北陸地域の企業

プロジェクトテーマ

パターン①で参加

- | | |
|--------------|-------------------------------|
| ・ 株式会社BKT | ・ BKT独自の全社DXモデルロードマップの立案 |
| ・ 株式会社石金精機 | ・ IPADプロジェクト |
| ・ 田中精密工業株式会社 | ・ ロードマップ策定による、全社的ペーパーレス化の浸透 |
| ・ 戸出化成株式会社 | ・ DXで射出成形製造プロセスの業務効率化推進プロジェクト |
| ・ 株式会社東洋電制 | ・ 全社DX構想の検討 |
| ・ 株式会社メタルウエア | ・ メタルウエアDX化推進プロジェクト |

パターン②で参加

- | | |
|-------------|------------------------------------|
| ・ 株式会社スギヨ | ・ 電子帳票データ・基幹データの活用可能性の設計/検証 |
| ・ 富木医療器株式会社 | ・ 営業支援システムの文字データ解析による新たな営業組織モデルの検討 |

協働プログラムでの成果報告

北陸地域の企業

協働プロジェクトの成果

パターン①で参加

- | | |
|-------------|--|
| ・株式会社BKT | ・課題の整理、3つの打ち手案とロードマップを提案 |
| ・株式会社石金精機 | ・チームで解決可能な課題を検討、情報提供とツール作成 |
| ・田中精密工業株式会社 | ・課題の深堀、ロードマップ含め今後の施策について具体例を提示 |
| ・戸出化成株式会社 | ・3年後のありたい姿からロードマップ作成とアプリケーション活用事例の提案 |
| ・株式会社東洋電制 | ・社内アンケートから見えたDX推進における課題の打ち手検討とロードマップの作成 |
| ・株式会社メタルウエア | ・向こう2年のDXロードマップ及び現状の経営課題に対する解決の方向性を共同で作成 |

パターン②で参加

- | | |
|------------|--|
| ・株式会社スギヨ | ・電子帳票データの可視化に向けダッシュボードのイメージ図の作成と情報提供および受注数予測AIモデルの構築 |
| ・富木医療器株式会社 | ・テキストで入力されているトレンドワードの抽出、データ加工プログラムの作成と環境提供 |

事業を通してのまとめ総括

企業側のメリット

自社の現状を整理してもらえ（デジタル化だけでなく、経営課題や組織課題も）

併せて、今後の目標設定も一緒に考えてもらえる

デジタル・DXについて、意識や関心が高まる（気づきの獲得）

受講生チームのスピード感に感化される（毎週課題整理、アウトプットが生まれる）

パターン①企業は、ロードマップ策定によるDX戦略の明確化につながる（どこに向かうか）

パターン②企業は、デジタルツール活用・習得による業務効率向上につながる（何を行うか）

チーム側のメリット

座学のみでは味わえない、生の企業の経営実態を実感できる（上手くいかないことのほうが多い）

実践の場で、1層・2層で学んできた知識やスキルが活かせるかどうかを試すことができる

一人だけではなくチーム（5～6名）で対応することで、異なる知識やスキルの習得も

今後の私的ビジネスにつながる可能性も…（相談あり）

- ・キャリアアップ(修了者へのオープンバッジ)
- ・案件獲得(DX推進コンサル、ツール導入等)

事業を通してのまとめ総括

デジタル推進人材育成プログラム「マナビDX Quest」をサポートする地域ハブ団体（当社）として

- ・参加企業並びに受講生チーム双方に大きな成果を感じてもらえたこと
- ・政府が提唱する我が国のデジタル人材を増やすという狙いの本事業は非常に有意義であること
- ・企業にとって、デジタル人材の採用、育成、活用は、今後の事業運営に必要不可欠な要素であること

今年度もマナビDXクエストは、受講生を募集することなので（6～7月予定）、是非参加してみたいかがでしょうか？ <https://dxq.manabi-dx.ipa.go.jp/>

今までにない、新たな出会いや学びや気づきが得られるはずです。